

実践タイトル

グループリスニングによる教え合い、学び合い



ひとこと

子供たちには、英語を学ぶことでその視野を広げてほしい。それぞれの夢に向かって！

実践者 木村 拓未

学校名：墨田区立隅田小学校
学校所在地：東京都墨田区墨田4-6-5
TEL：03-3614-0203
URL：<http://www.sumida.ed.jp/sumidasho/>

使用するICT機器・準備物

指導者

| | |
|--------|------------------------------|
| デジタル教材 | 指導者用デジタル教科書(教材), ロイロノート・スクール |
| 使用端末 | iPad OS |
| その他機器 | プロジェクター |

学習者

| | |
|--------|---------------------------------------|
| デジタル教材 | 学習者用デジタル教科書・教材セット, ロイロノート・スクール |
| 使用端末 | 1人1台使用, 場面によりグループで使用(4人に1台程度) iPad OS |
| その他機器 | |

学校内のICT環境、活用実態

本校は、2020年度に貸与された児童1人1台端末の利用を1月には開始した。児童に配布する前にICT委員会を発足し、タブレット端末使用上のルール作りやトラブル対応等の対策を講じて、児童の学習支援教具として利用している。

本区では、全ての教室にプロジェクター、Apple TV、書画カメラが備え付けてある。各担任にも1人1台のiPadが貸与されているため、写真資料や動画などを提示する際には、Apple TVとの無線接続によりスムーズに示すことができる。また、無線接続のため、担任は教室のどこにいても端末を操作しながら指導ができることが大きな利点である。

授業では「ロイロノート・スクール」という学習支援アプリを、家庭学習においては「ミライシード」という学習ソフトを主

に使っている。本校の教員は「ロイロノート・スクール」の使用頻度が極めて高い。特に中学年以降の教員は、ほとんど全ての教科で活用している。音楽や図工といった専科教員も同様である。その主な用途として、児童への資料提示、意見の交流、学習成果のプレゼンテーションが挙げられる。児童の作品や活動の様子を記録し、評価の手立てにも役立てている。さらに、委員会活動やクラブ活動、係活動といった場面でも、アンケート作成機能を使って児童がアンケートを実施し、自分たちの活動をより豊かにしている。

このように、本校はICT環境が充実しており、教員も児童もタブレット端末をより積極的に活用している。そのため教員は指導力の向上に、児童は創作活動に役立てている現状にあると言える。

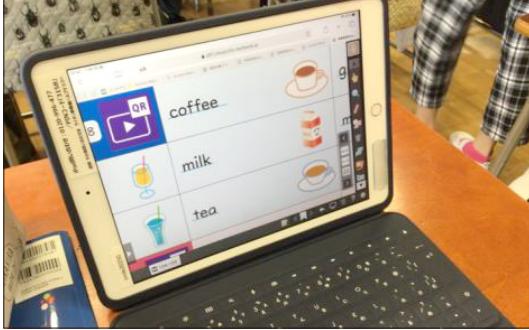
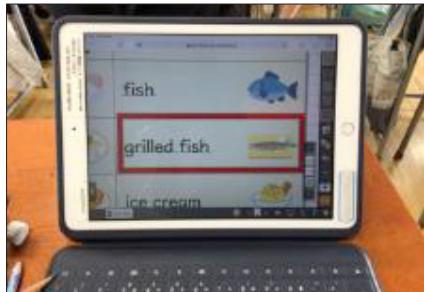
単元全体の計画 —— Unit 5 This is my sister. ——

| 目標 | 学習内容・学習活動 | 学習者用デジタル教科書 |
|--|---|--|
| 第1時 Who's this? / He / She is... .などの表現を使って、第三者の紹介の仕方を知る。 | ①挨拶 ②Pointing Game (一般動詞) ③Small Talk ④Chant ⑤【Listen and Do】 ⑥Who is this? Quiz ⑦振り返り・挨拶 | ・Pointing Game で Word List を活用する。 ・Listen and Do では、画面を拡大させたり、枠を書いて選択部分を強調させたりする。 |
| 第2時 自分が得意なことを伝えたり、他者が得意なことを聞き取ったりする。 | ①挨拶 ②Pointing Game (動名詞) ③Chant ④Small Talk ⑤Conversation Time ⑥振り返り・挨拶 | ・Pointing Game で Word List を活用する。 ・Chant を流す前に、画面を拡大させ、強弱を確認したり文を読んだりする。 |
| 第3時 自分が得意なことを伝えたり、相手が得意なことを尋ねたりする。 | ①挨拶 ②Pointing Game (動名詞) ③Chant ④【Listen and Do】 ⑤Conversation Time ⑥振り返り・挨拶 | ・Pointing Game で Word List を活用する。 ・Listen and Do では、ローマ字打ちで答えを入力させる。 |
| 第4時 身近な人の性格や特徴を紹介したり、聞き取ったりする。 | ①挨拶 ②Pointing Game (性格や特徴) ③Chant ④No Match Game ⑤振り返り・挨拶 | ・Pointing Game で Word List を活用する。 |
| 第5時 (本時) 他者を紹介している短い話を聞き取ったり、紹介するための表現を書き写したりする。 | ①挨拶 ②Pointing Game (一般動詞) ③Chant ④【Listen and Do】 ⑤振り返り・挨拶 | ・Pointing Game で Word List を活用する。 ・学び合いの場を作るため、グループワークの際に活用する。 |
| 第6時 憧れの人を紹介するため、紹介する内容を考え、その単語や表現を書き写す。 | ①挨拶 ②Anagram Game ③Small Talk ④Writing Time (発表の準備) ⑤振り返り・挨拶 | ・Anagram Game で Word List を活用する。 |
| 第7時 相手に伝わるように配慮しながら、憧れの人を紹介する。 | ①挨拶 ②Anagram Game ③Chant ④My Hero Show (グループ内で発表) ⑤振り返り・挨拶 | ・Anagram Game で Word List を活用する。 |
| 第8時 相手に伝わるように配慮しながら、憧れの人を紹介したり、感想を伝えたりする。 | ①挨拶 ②Anagram Game ③Chant ④My Hero Show (グループ・全体で発表) ⑤振り返り・挨拶 | ・Anagram Game で Word List を活用する。 |

単元のゴールに「My Hero Show を開こう」という学習活動を設定した。自分が憧れる人、紹介したいキャラクターなどの「名前」「できること」「得意なこと」「性格・特徴」を1人ずつプレゼンテーションする。その際に、iPad に写真を映させて、Show & Tell の形式を取る。

授業の展開 —— Blue Sky elementary 5 教科書 p.58, 59 5時間目／8時間中 ——

本時の実践は、発表の準備をする前の時間である。自分が発表する内容を確認させるためにも、聞き取る内容を5つの情報に限定させる工夫を施した。

| 授業の流れ | 主な学習活動 | ▶ 教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材 |
|-------|--|---|
| 導入 | <p>■挨拶をする。</p> <p>T : Let's start our English class.</p> <p>C : Let's start our English class.</p> <p>■尋ねられた曜日や日付、天気を英語で答える。</p> <p>■巻末資料 Word List で Pointing Game をする。</p>  <p>T : Let's check today's Word List.</p> <p>T : Milk. m, m, milk</p> <p>C : Milk!</p> <p>■単語を見つけたら、発話しながらその場で立つ。</p> <p>T : Let's check the answer.</p> <p>T : Milk. 1,2. (該当単語を指しながら)</p> <p>C : Milk!</p> <p>T : That's nice. Please, sit down.</p> <p>※この他に「Pudding」「Grilled fish」を扱った。</p>  | <p>指導者用デジタル教科書</p> <p>プロジェクター</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Word List p.100,101をスクリーンに映しておく。</p> <p>学習者用デジタル教科書</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Word List p.100,101を開かせる。ページ移動の際は、ページボタンを押して直接移動させる。</p> <p>▶ Alphabetの音に慣れさせるため、単語の最初の音を繰り返し発音する。</p> <p>学習者用デジタル教科書</p> <p>▶ その場で立つ際は、見つけた単語を発話し、学習者用デジタル教科書で画面を拡大させる。さらに、赤い線でその単語を囲ませる。</p> <p>▶ 答えを確かめるときには、指導者用デジタル教科書の画面をズームアップして、全児童が理解できるようにする。</p> |

| 授業の流れ | 主な学習活動 | ▶ 教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材 |
|-------|--|--|
| | <p>■ 扱った Word List の単語を使い、担任やグループ内の児童と簡単な会話のやり取りをする。</p> <p>T : Can you eat pudding?</p> <p>C : Yes, I can. (No, I can't.)</p> <p>T : Let's have a conversation with your friends.</p> | <p>▶ 学習内容の理解を促すために、既習事項の表現で質問する。 ※ Can you eat (pudding)? など</p> |
| 展開 | <p>■ Chant を通して、本時の学習表現を理解する。</p> <p>T : Let's do Chant.</p> <p>T : Let's read the sentence. 1,2.</p> <p>■ Today's Goal を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>Today's Goal 紹介された人のことを聞き取ろう</p> <p>■ Listen and Do ② で内容を聞き取る。</p>   | <p>学習者用デジタル教科書 <input checked="" type="checkbox"/> p.58 の Chant の部分を拡大させ、文を読ませる。</p> <p>指導者用デジタル教科書 <input checked="" type="checkbox"/> 全児童が言えるようにするために、「ゆっくり」モードも使用する。</p> <p>▶ 互いに聞こえたことを共有し、教えあって聞き取ることを指示する。</p> <p>▶ 英語による会話に慣れさせたり、話の内容理解をさせたりするために、何度も聞き直してよいことを伝える。</p> <p>▶ 様々な情報が聞き取れるが、今回は単元のゴールで発表するために表現させたい「名前」「できること」「得意なこと」「性格・特徴」の5つの情報だけを聞き取らせる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1班4人(または3人)の中で1台だけiPadを使わせる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> iPadのスピーカーをグループの中央に向けて全員が聞こえるように配慮させる。</p> |

| 授業の流れ | 主な学習活動 | ▶教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材 |
|-------|---|--|
| | <p>■聞き取った内容を全体で共有する。</p> <p>T : Let's check the answers.</p> <p>T : Name is ...?</p> <p>C : Yukiko!</p> <p>T : That's right! She's Yukiko.</p> <p>T : Next. She can ...?</p> <p>C : She can ...</p> <p>■自分が紹介したい人の内容を考える。</p> <p>T : Let's think about your hero.</p> | <p>▶ 「名前」「できること」「得意なこと」「性格・特徴」について簡単な英語でやりとりしながら順に確かめる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学習に集中させるため、答え合わせをする際は、iPadを閉じさせる。</p> |
| まとめ | <p>■本時で学習した内容を確認する。</p> <p>T : It's today's conclusion.</p> <p>■学習を振り返る。</p> <p>■挨拶をする。</p> <p>T : Let's finish our English class.</p> <p>C : Let's finish our English class.</p> | <p>▶ 「できること」「得意なこと」「性格や特徴」の表現を確認する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Today's Goalに対して、自分が達成できしたことや学びになったことなどを振り返らせる。</p> |

児童の反応、実践の手ごたえ

児童にとって、学習者用デジタル教科書はこれまで慣れ親しんできた「紙の教科書」より“特別感”がある。児童は好奇心が高まり、学習により積極的に取り組んでいる。小学校の英語学習では、やはり音声が重要だ。音声で十分に慣れ親しんだ単語や表現をもとに、コミュニケーションを図ることができる児童を養っていきたい。

今回の実践は、グループプリスニングである。学習者用デジタル教科書が音声を流せるというメリットを活用した。何度も音声を再生させることで内容理解を確実にさせることと、互いに教え合うことで学習内容を定着させることをねらいとしている。「もっとグループプリスニングをしたい。」と

いう児童もいて、特に英語に苦手意識を持っている児童にとっては有効な手立てであったと判断している。

もう一つ、Word List を使った Pointing Game でも学習者用デジタル教科書を活用した。この取り組みは 学習者用デジタル教科書が導入されたときから実践している。画面に指示された単語を拡大できていない児童を把握することで、漏れなく全ての児童に指導することができる。慣れてくれば、見つけたい単語を拡大し、枠で囲って強調することは、児童にとって雑作もない。児童の電子端末への順応性は高いので、継続的に活用し、かつ頻度を増やすことが必要であると考える。

まとめ

今回、学習者用端末や学習者用デジタル教科書を授業で使用してみて、感じた課題と対策例を以下に示す。

① 学習規律・端末使用のルール作り

授業中に学習者用デジタル教科書を使用しないときは、常に iPad を閉じさせるようにした。担任が説明したり、友達が発表したりしているときに、勝手に他のページを閲覧したり、ペンモードで落書きをしたりと学習に全く集中することができなかつたからである。その様子を黒板側からは目視できないことが指導する上で非常に苦労した。学習者用タブレットは立てかけて使用することが多く、担任からは画面を把握することが難しいからだ。

そこで、学習規律と校内のルールの徹底を行った。まずは、全教員がそのルールを徹底することと、明文化したものを見童に配布する。タブレット端末を使用しないときは閉じさせる。これをまず徹底した。このような細かなルールを含め、全ての教員が校内のルールについて共通理解し、徹底した指導を行うことが求められる。

② 操作性

学習者用デジタル教科書を扱う際に、ズームアップを使用することが多い。そのときに、誤ってペンモードのまま操作すると、大量のペンの跡が書き込まれてしまう。ページをめくったり拡大したりするときとペンを使用するときとモード切り替えをしなければならないため、留意が必要である。

英語の教科書ではあまり使用しない操作ボタンもある。「ツールバー設定」から、使用しない操作ボタンを非表示に設定しておくことも有効である。

③ 活用しやすい教材や資料

学習者用デジタル教科書の利点は、「音声を何度も聞けること」、「画面拡大ができる」との2点だ。これまで全体で1回、ないしは2、3回程度しか聞けなかつたものが、自分が理解できるまで何度も聞く。これは、学習者にとっては非常に大きなメリットである。第二言語習得論の教授法の一つに「インプット仮説」(白井恭弘(2008)『外国語学習の科学－第二言語習得論とは何か』岩波新書)がある。学習者にとって「聞くこと」は重要な学習なのである。

画面拡大もデジタル教科書の最大のメリットの一つだ。本実践では、見つけた単語を拡大することで、児童の学習状況を把握するために利用した。導入ページの詳しく描き込まれたイラストなどは、拡大することで新たな発見ができる資料として活用することも考えられる。

④ 周辺機器の整備等

英語の学習者用デジタル教科書の活用には、イヤホンと電子ペンが不可欠だと考える。電子ペンはある程度代替が効くが、イヤホンはあった方がよい。個人が何度も音声を聞くとなれば、イヤホンがないと周囲の端末の音声も聞こえてしまうので、集中して聞き取ることが難しい。イヤホンを使用することで、個人のペースで学習に取り組むことができる。

さらには、指導者用として、児童の解答状況を一括に把握できる機能が備わってほしいと感じる。児童の学習者用デジタル教科書での解答状況を、指導者が一括で知ることができれば、児童のつまずきを早期に知ることができる。そうなれば指導の改善に役立てることができる。

様々な課題はあるものの、英語という教科において、学習者用デジタル教科書は非常に効果的な役割を果たすことが予想される。デジタル教科書のさらなる改良に期待しつつ、デジタル教科書を扱うスキルの向上にも努めていきたい。